

増血剤の注射を行います。1回目の採取の1週間後に2回目の採取(400cc)を行い、再び増血剤の注射を行います。いずれも採血後、血清と呼ばれる成分を検査室で取り出します。血清は細胞を培養する際に、必ず必要な成分です。分離された血清は細胞培養時まで保存します。この間に感染の危険性はありますが、検査を行い感染予防の対策を行います。

1回目の採取直前に貧血のチェックをして、基準値より低い場合は、採取を1週間延期します。2度目の採取日にも基準値より低い場合は、試験中止となります。2回目の採取の際も直前に貧血のチェックをして、基準値より低い場合は増血剤の注射のみを行い、採取を1週間延期します。1週間後の採取日にも基準値より低い場合は、試験中止となります。



④ 骨髓液の採取(100cc): 移植手術4~8週間前

外来棟の中にある、日帰り手術室(ディ・サージャリー室)で全身麻酔のもとで骨盤骨に注射針を刺して採取します。1ヶ所から20cc採取して、5ヶ所から合計100cc採取します。採取後はガーゼで圧迫止血して骨髓採取は終了です。その後2~3時間、全身状態を観察させていただき、問題が無ければ帰宅していただきます。採取した骨髓液は、分子細胞治療センターへ運び、その中から間葉系幹細胞を取り出します。



⑤ 細胞培養: 移植手術4~8週間前より

細胞培養とは、細胞をプラスチック容器の中で分裂させて増やす技術です。骨髓液から取り出された間葉系幹細胞は分子細胞医療センターで、あなたの血清を含む栄養液(培養液と呼びます)により、移植に必要な数になるまで培養します(約3週間)。必要な量の細胞を培養できたら、細胞を凍結させ、専用容器に管理責任者の管理のもと分子細胞医療センター内で保存します。ここで、細胞を凍結保存できる期間は30日間ですので、その期間内にあなたの体調に合わせて手術を行います。手術日の7日以上前に対応表に基づいてあなたの細胞を解凍し、細胞の状態を確認して移植できるかどうかを判断します。